



ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK通巻番号652号

発行 令和8年7月10日

毎月10日発行 定価100円
(維持会費に含む)

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
細川久美子

ふきのとう文庫の思ひ出

かれこれ五十年前、西区平和に住んでいました。幼い子二人と毎朝散歩していた時に、よく平和滝入口のバス停にむかう小林静江さんと逢いました。二言三言挨拶する内に、「クジラのお腹にチャックをつけて中から子クジラが出てくるのよ」と、それは嬉しそうに話してくれました。それが小林さんとの出逢いです。それから引越し、今は中央区盤渓に住んでいます。

ある日、小林さんから電話があつて「あなた文庫を手伝ってよ」と。ちょうどその頃は下の子が家を出る時だったので、お受けしました。事務仕事は初めてでしたが、事務局長理事の平山さんが丁寧に教えてくれ、又会計事務所の方も来て何とか引き継ぐことが出来ました。月末には会計の表のたてと横がピタッと合ひ、年度末も同様です。私この仕事好きかもと思つたくらいです。

その頃も多くのボランティアの方々に支えられていました。布の本では笹井さん、近藤さん、渡辺さん、橘さん、上野さん達、拡大写本は菊地さん、山本さん、図書は田上さん、篠尾さん、村井さん等が中心になつて入れ替わりで作業に励んでいました。お昼は事務室で一緒に食べる昼食が楽しい時間でした。

さて、私はこの多くの方々はどうやって感謝したら良いのかと思うようになり、まず、一年間にどのぐらいの人が来て、本は何冊借りられたか、購入したか。布の本は何冊作成し何冊買つてもらったか。拡大写本は何冊作りどこへ寄贈したのか等を細かく記録して、多勢の人に喜ばれていきますという事業報告を改めまづ理事の方々に知ってもらいました。又、待っているだけでは仲々本を借りてもらえませんでした。近所の幼稚園の「ポラーノ」と学童保育所の「えぞりす」に、

月三十冊を運びますとお願いしました。後に孫達がポラーノへ私はえぞりすに手伝いに行き、あつあの時の人と言ひ合いました。

次にふきのとうの運営をボランティアにも理解してもらいたかつたので、理事評議員の中心になつている人を一人でも多く加わってもらうように高倉さんをお願いしました。それがふきのとうのこれから結びつくと思つたからです。その流れの中では、亡くなった出村さんには多大な力になつてもらつたことと思います。ありがとうございます。

ふきのとうには六年半くらいお世話になりました。その時仲良くしていた人達とは今もつながっています。今学童保育所の子供達をみるとマンガ、ロマンス、サスペンスを含んだシリーズの読み物、レシピ本等が人気がありそうです。でもやはり感動し心に残る本を読んで欲しいものです。ふきのとうに行けばそういう本がそろっています。私も孫達の誕生日プレゼントには一冊づつ加えています。それにしても皆様の善意だけでここまで続いたこと、そしてこれからも続くことを願います。私にとつても長い間、関わりをもてたことに感謝します。

元事務局長 佐々木 順子



プロフィール

一九四九年生まれ。四十八才から六年半ふきのとう文庫の事務、学童保育所えぞりすを手伝う。孫六人のおばあちゃん。

令和7年度 事業・決算報告

事業報告

1. 令和7年度 事業全体のまとめ

令和7年度の大きな取り組みは「ふきのとう・こどもクラブ」専用館の新設開業を4月6日に実現することができました。関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

しかし、運営金助成も令和7年度で終了し、今年度より自立による資金調達が急務となり、これからの事業継続のための運営改革が急務となっています。

図書館利用はおよそ前年同様数であり、イベント開催と参加者はやや増加の進行にあります。布の本の製作も新たなボランティアさん参加が増え新グループ結成の準備が進んでおります。拡大写本製作も過年度活動ベースを着実に進めております。

1) 子ども図書館の活動

〈利用内容〉

区 分	令和6年	令和7年	コメント
① 開館日数	205日	204日	
② 入館者数	6,232人	6,062人	
③ 登録者数	5,443人	5,777人	
④ 貸し出し件数(図書) (拡大写本)	21,280冊 226冊	21,328冊 282冊	うち紙芝居323冊
⑤ 図書の拡充(新規購入) (紙芝居) (寄付図書) (除籍)	80冊 2冊 253冊	185冊 3冊 196冊 61冊	



- ① 図書の整備、書架から取り出しやすく、見やすくなるように整備することを継続していく
- ② 未返却本の督促など継続、今年度も継続して行っていく
- ③ 来館者との交流、来館した親子等との交流を継続する

2) 布の本の製作・貸し出し活動

〈製作内容〉

区 分	令和6年	令和7年	コメント
① 材料セット	310冊	348冊	増加
② 完成本	169冊	182冊	増加
③ 販売品	773個	302個	小物減少
④ 修理	8冊	2冊	
⑤ 合計件数	1,260	834	
⑥ 販売額	196.7万	226.7万	期末での入金



- ① 注文数は過年度と変わらないが、製作者の高齢化、病気等体調不良の方がおり今まで通りの製作が出来ないのが現状である
- ② 材料費のコストアップの対応策として、赤字での製作は無理があり、13年前からの現状価格を見直す時となり、原価試算などを行い新価格の準備を進めていく
- ③ 新しいメンバーさんが増えてきた。昨年のUHBとのコラボ企画の中で募集した布の本ボランティアが6名加入し来年新たな布の本ボランティアグループとなり現在活動中
- ④ UHB協賛「みちゅバチのカレーづくり」オリジナル布絵本を製作

3) 拡大写本の製作活動

〈製作内容〉

区 分	令和6年	令和7年	コメント
① 製本(児童図書・絵本)	153冊	101冊	うち漢字体17冊を含んでいる
② 拡大写本(寄贈) ひとみの教室 札幌視覚支援校	52冊 28冊 24冊	48冊 23冊 25冊	
③ 貸し出し	27冊	55冊	団体39冊個人16冊

- ① 活動メンバーに新しいボランティアさんが加わり活動内容が充実してきた
- ② 子ども達からのリクエストに応じて活動が進んでいる



4) 広報活動

- ① 「ふきのとう文庫だより」の発行(1,700部)
・NO136号(7月10日)・NO137号(11月10日)・NO138号(3月10日)
- ② 今後の文庫だより発行とコスト判断
印刷コストアップの影響もあり現在の文庫だよりの発行形態が問われ、HPおよびSNSでカバーできないか、そのことでコスト削減など検討していく。
- ③ 武蔵女子大との連携 こども図書館の視察と活動紹介講座
- ④ 野間読書推進賞受賞 11月7日贈呈式参加(高倉代表理事・高倉理事)

5) 子ども催事（イベント）報告

① 催事参加内容

区 分	令和6年	令和7年	コメント
① イベント数	28回	32回	増加
② 参加数	462人	644人	増加

② 報告

皆さまのご協力のもと2025年度も多様性に富んだ催事活動をすることができました。おはなし会・うたう会はコロナ禍で中止になった年度もありましたが、30年以上も続けることができました。今季は新しい試みとして、中国楽器「二胡の演奏会」を組み入れたり、すべての催事にご一家で参加するようになり大人の人数が多くなり合計人数が644人になりました。

6) ふきのとう・こどもクラブ

別途4Pに報告

決算報告

(単位：円)

収入の部	予 算	今期決算	前期決算	前々期決算
1. 賛助会員収入	2,500,000	2,471,000	2,044,000	1,878,300
①個人賛助会員	2,000,000	1,723,000	1,758,000	1,718,300
②法人賛助会員	500,000	748,000	286,000	160,000
2. 寄附金等	3,500,000	2,996,280	3,817,068	4,194,908
①寄附金	2,500,000	2,296,280	3,417,068	3,894,908
②その他助成金(こくみん共済)	1,000,000	400,000	400,000	300,000
③読書推進協議会	0	300,000	0	0
	0	0	0	0
3. 助成金	8,940,000	9,260,000	60,014,130	8,365,200
①共同募金会配分金	1,400,000	1,400,000	1,400,000	1,400,000
②道新福祉基金	100,000	100,000	100,000	100,000
③その他(コープ共済他)	6,440,000	6,760,000	8,180,000	6,865,200
④日本財団 増床助成	0	0	50,000,000	0
⑤日本生命財団	300,000	0	334,130	0
⑥その他(団体・法人)	700,000	1,000,000	0	0
4. 事業収入	2,000,000	2,267,430	1,967,110	1,835,304
5. 雑収入	0	56,311	4,623	90
当期収入合計	16,940,000	17,051,021	67,846,931	16,273,802

(単位：円)

支出の部	予 算	今期決算	前期決算	前々期決算
1. 管理費 計	13,510,000	13,262,894	13,776,663	11,679,425
2. 事業費 計	3,430,000	3,598,014	53,247,052	2,107,529
①図書運営費	650,000	578,777	621,763	477,802
②布の本制作費	1,050,000	1,774,837	1,539,543	747,065
③拡大写本制作費	320,000	262,169	256,015	373,710
④第3の居場所	680,000	0	0	0
⑤研修費	20,000	33,628	16,120	5,000
⑥機関誌発行	460,000	559,722	411,541	257,462
⑦子ども催事費	80,000	67,929	71,030	33,190
⑧展示会開催費	50,000	50,000	50,000	50,000
⑨普及・販促活動費	120,000	270,952	177,600	163,300
⑩増床関連費	0	0	50,103,440	0
当期支出合計	16,940,000	16,860,908	67,023,715	13,786,914
当期収支差引額	0	190,113	823,216	2,486,888

収支報告

収入は、ほぼ予算・昨年実績推移となりましたが、変動の大きい高額寄付額が予算・前年を下回りました。支出も予算・前年実績推移であり、収支差引額は+19万円で確定しました。収入支出ともに昨年の日本財団増床関連助成金(5,000万)の差はありますが昨年水準で運営することができました。

本年度課題では、日本財団からのこどもクラブ助成額終了部分(500万)をいかに獲得するかが収支上でのポイントになり、さらにひと廻り大きなふきのとう文庫ご支援の輪を広めることが急務となっており、賛助会員皆様へのご協力をお願い申し上げます。

心のバトンをつなぎませんか

代表理事代行 二通 諭

小樽市立病院小児科に「院内ふきのとう文庫」を開設した一九七三年十一月二十七日が「ふきのとう文庫」の誕生日です。

一九七三年といえば、私がまだ北海道教育大学札幌分校養護学校教員養成課程の四年生だったころです。一九七二年の国会論戦を経て一九七三年十一月に養護学校義務制実施の施行期日を定める政令が公布されました。障害の重い子どもを含めすべての子どもたちに教育権が保障される養護学校義務制が実施されたのは一九七九年四月一日ですが、一九七三年の夏には、関東圏の教育委員会の職員から、「この県に来てください」といった誘いを何度も受けることになったのです。それまで、障害の重い子どもたちを学校教育から排除していたのに、国会で養護学校義務制が通ると、まさに手のひら返しのごとく、一気呵成に養護学校建設が進められ、「あなた方のような障害の重い子どもへの教育についても学んできた若い人が欲しい」とスカウトされるようになったのです。(やると決まったら一気に徹底してやるというのがこの国の特徴かもしれません)

そんな歴史の転換点とも言うべき一九七三年に産声をあげた「ふきのとう文庫」ですが、いま苦境の渦中にあります。正直に言わせていただくと、お金が必要なのです。

ボランティアの皆さんの力を得て、手作りの「布の本」や「拡大写本」の製作を続け、子どもたちが自分のリズムで、自由に過ごせる場である「ふきのとうこどもクラブ」という家庭でも学校でもない第三の居場所への道も拓いてきた「ふきのとう文庫」は、子どもたちの発達を守る象徴的な存在として光を放っています。目下、「ふきのとう文庫」という心のバトンをつないでいきたいの思いをもつ多くの方が、苦境から脱するべく努力を重ねているところです。

皆様におかれましては、賛助会費、ご寄付をお願い致します。また、周囲の方にも一声かけていただく機会などありましたら、どうかよろしくお願い致します。

ふきのとう・こどもクラブ

二〇二五年度の活動をふりかえる

運営リーダー 星野 康

二月末の時点でふきのとう・こどもクラブ登録者は延べ一二十八人となりました。「来たい日来たい時に来る」のが第三の居場所でもあるので、普段やってくるのは十名前後ですが誕生会などのイベントになると定員いっぱい二十名になることもあります。

開所から三年目の今年の特色は第一に「カフェタイムの充実」です。日本財団助成金での予算化はありますが個人や団体の寄贈品があり、のり巻き、いなりずし、うどん、ラーメン、冷や麦等の麺類、パンケーキやお好み焼き、たこ焼き。夏のかき氷と餅といったように手作りメニューが増えました。美味しいおやつや軽食をいただきながらのカフェタイムは笑顔いっぱい、会話も弾みます。

二つ目は十一月に行った「本のしりとりに大会」です。こどもクラブは「本とのふれあい」を大切にしていきます。誕生会などでの絵本の読み聞かせや、毎月二十冊のふきのとう文庫ボランティアさんのおすすめ本は継続して進めてきました。十一月の読書週間に合わせ、初めて取り組んだ「本のしりとりに大会」は、図書館で三冊の本を借りて進めました。子どもたちの評判も上々だったようです。

三つ目はお出かけイベント活動です。今回は五



月の「おたる水族館へGO!」に続いて、近くの北大博物館、北大植物園と二回でかけました。お弁当やおやつをもって歩いている佐藤広也さんにガイドになってもらい、新しい発見もあり楽しい一日を過ごすことができました。

お正月には書初めを行い、節分には鬼のお面作り、そして豆まきをする。桃の節句に合わせ折り紙のひな人形を作る。北大で拾ってきたどんぐりでトトロの置物を作り、クリスマスには「お菓子の家」を作る、などなど、季節に合わせたイベントや「もの作り」はこどもクラブで大切にしていきたいことです。これらのことは今後とも継続していきたいこともあります。



「ふきのとう・こどもクラブ」運営基準改定

「ふきのとう・こどもクラブ」は、家や学校以外にこどもたちにとって居心地のよい場所作り、様々な体験や地域との交流を通してこどもたちの生き抜く力を育むことを目的に、第三の居場所として、「ふきのとう・こどもクラブ」を設立しました。

今年七月一日より運営内容を改訂し、気楽に立ち寄って遊び、学び、読書や交流などでの活動の特徴とし、実費用の一部を利用者負担とさせていただき内容の充実を目指していきます。

主な運営基準の変更点

(一) 標準運営日時

(二)

・標準運営曜日と時間
月・火・水曜日の14:00～18:00
・運営基準タイムスケジュール
14:00～16:00: 読書・学習・工作など
16:00～18:00: 遊び・体操・おやつ(軽食)など

(三)

・その他イベント、体験プログラム、スタッフ研修・勉強会などは別途

(四)

・やむを得ない理由で、当日休館する場合は、ただちにHP/ SNSで保護者に通知する
・組織運営及び執行体制
・事業責任者は、担当理事および代表理事・代表理事代行・業務執行理事とする
・なお、日常運営に関しては運営スタッフを採用し運営を委任することができる

(五)

・施設利用料は令和八年六月(七月利用分)から利用料を支払う
・用途は水光熱費・軽食代・保険料等の一部として引き当てる
・料金
①定期利用 月額三、〇〇〇円(開館日すべて利用可能)
②回数利用 六回分二、〇〇〇円(年度内利用)

(六)

・支払い方法は毎月または一年分を利用前月までに口座振り込みする
・施設利用方法
・別途、利用申込書を提出の上、施設利用料を支払う

(七)

・開始日時
・本基準は令和八年七月一日からのスタートとなる(会費支払いは六月末)

布の本製作活動のご紹介

担当理事 原 哲子

布の本ボランティアグループには六つのグループがあり、約五十名が全国の図書館からのオーダーに応えるべく布の本の製作を行っています。

布の本は誰が製作しても同じ本に仕上がるように、型紙に沿って細かい作り方マニュアルがありベテランボランティアさんから技術が伝えられていますが、これはとても大切な事であり、技術が受け継がれていけるよう新加入ボランティアさんへ細かな製作指導をしています。

新加入ボランティアさんは、まず初めにふきのとう文庫で提供されているやさい・くだものセットを作りますが、型紙の作り方、フェルトの切り方、ブラケットステッチの間隔を一定にする練習、刺繍の練習から始まります。

この練習をクリアした方から次の段階、布の本作りに取り掛かります。

布の本は全国からのオーダー製作をしますので一定の品質完成度が必要ですが、初心者には縫う毎にチェックを受け不備のある時は縫い直しも必要になります。縫い始めから何ヶ月もかけて初めて一冊の布の本が完成した時は誰もが感動する瞬間です。

一冊の完成までには多くの時間を費やしますが、自分が作った絵本で子どもたちの喜ぶ姿は大きな喜びと活動の原動力になり、ボランティア活動につながっています。

布の本について

布の本は全国の図書館からのオーダー製作しており二十九種類の布があります。

その他に布の本製作キット・単品製作もしており、これは図書館利用の方にも提供しています。本に使用するフェルトの色は約五十色あり、文庫に見学に来られた方は種類の多さに驚かれます。

布の本はボタンの留め外し、ファスナーの開閉、マ

ジックテープの付け外しなど、指先を使う様々な仕掛けを施しており、丈夫に作ることは勿論、安全に遊べる事にも注意を払っています。



付け外しに多用されているマジックテープは、ハリがありその角は鋭利で子供が遊ぶには安全とは言えませんが、その為マジックテープは穴あけハトメ抜きで丸くカットしてから使用しています。

きれいに、丈夫に、安全に配慮して製作している布の本をぜひ、ふきのとう文庫で手に取って頂きたいと思っています。

フェルトに思いを込めて

布の本ボランティア 白山恵利子

「絵本」というと、鮮やかな色彩にあふれた、かわいらしい挿絵やイラストが魅力的です。でも、ふきのとう文庫で製作している「布絵本」は、それだけではありません。ページをめくると、ふんわりと柔らかく、温かい感触が伝わってきます。おもな材料であるフェルトの感触です。

先日、高校の時から友人に布絵本ボランティアの話をすると、「高校一年生の時にあなたにももらったフェルトのマスコットが、見たことのないくらい丁寧で作られていてびっくりした」という話をしてくれました。私自身はほとんど記憶にありませんでしたが、そんなに昔から私はフェルトを縫うことに喜びを感じていたんだなと思いました。

布絵本ボランティアを始めてちょうど一年、これまでに五冊の絵本を完成させ、六冊目がもうすぐ縫い上がります。一冊完成する毎に大きな達成感を味わうことができます。体力も視力も若い頃に比べると大きく劣りますが、布絵本を手にとってくれた人に少しでも素材のもつ温もりが伝わるよう、これか

らもひと針ひと針心を込めて縫っていきいたいと思います。

「布の本・拡大写本展」のとりくみ

さくらグループ 神山 晶子

さくらグループは定期的に多目的ホールで拡大写本グループと協力して「布の本・拡大写本展」を開催しています。

昨年の十二月の展示会にはたくさんの方の親子連れが来館し特にフェルトのデコレーションキーキや大きなじゃんけんサイコロ、機関車「ふきのとう号」のタペストリーが大人気で、エプロンシアターやパネシアターも楽しんでもらえました。

また毎年十月には視覚支援学校の学校祭で一教室お借りして拡大写本、布の本・遊具の展示を行なっています。

私たちが一針一針縫った布の本や遊具で子どもたちが楽しく遊んでいる姿を見ることができ私たちも楽しい時間を過ごすことができました。展示会でしか見られない大きなタペストリーや遊具、拡大写本の活動を知っていただける貴重な機会なので、準備は大変ですが今後もできる限り展示会の開催を続けていきたいと思っています。

ふきのとう文庫 布の本・拡大写本展

～タペストリー・布の本とおもちゃ・大きな字の本～

9月6日(日) 10:00～15:00
9月7日(月) 10:00～15:00
* 10:30～エプロンシアター・パネシアター
大型絵本よみかけ

お誘い合わせ
ふきのとう文庫子ども図書館
札幌市中央区北6条西12丁目8-3
TEL 011-222-4930 (日・水曜日 10時～15時)

楽しい布のおもちゃがいっぱい！
遊びに来てね！

お大きな字の本もあるよ！

賛助費、寄附、寄贈ご芳名

ご支援ありがとうございました。

2026年3月以降賛助会費納入一覧

阿久津良二	安宅 仁志	安達 輝夫
阿部 登	飯田 孝雄	飯村 俊幸
石川 一美	石黒 英彦	伊勢 成子
伊藤 源弥	井戸向由理	稲垣 智彦
井上せつ子	猪股久美子	井原恵美子
岩田 力	植竹 俊光	上村 由美
牛久保真澄	碓井トミ子	内田 和浩
遠藤知恵子	大内 和子	大倉 聡子
大島千寿子	大竹千鶴子	大塚 宏哉
大辻 每子	大野 公子	小笠原多美子
岡田 智雄	岡安 泉	岡安 美幸
小川 基弘	奥野 和弘	小栗 法韶
押田 法明	小田切晃紘	小田嶋雅子
小野 美穂	小野 祐子	小野寺信子
恩村 裕之	攪上 久子	角田 順子
葛西 結花	加藤久美子	加藤 紀夫
加藤 久枝	金沢 幾子	金山 聖子
兜 賢一	鎌田 哲宏	上條 尚子
亀井 伸照	加森久美子	川口谷 正
川村 智子	切金 浩幸	菊井 淑子
菊地 澄子	喜多 宏明	北川 恭三
北口己津子	北守 昭	君島 道明
木村美知子	熊谷 勝宏	熊野 清子
合田 一道	國岡 信子	國澤 敏子
小島美津子	小竹 勝	後藤 正憲
小林 孝三	小林 寛	小松 徹
小柳田鶴子	齊藤 洲男	斎藤 仁史
齋藤 寛	堺 久子	桜庭 英明
佐々木勝敏	佐々木順子	佐々木扶美子
佐々木雅夫	佐藤 章	佐藤 香
佐藤真由美	佐藤 靖範	繁富よしえ

島 功二	島 宏彰	下村 愛
東海林和代	白戸 一秀	陣内 尚子
末永 範子	菅林 健治	菅原三重子
菅原 睦子	杉崎 政明	鈴木 邦夫
鈴木 幹夫	鈴木美保子	須藤 純子
諏訪部千秋	瀬川 淳子	関 寛
瀬山 春彦	宗本 和博	高倉 聡子
高倉 新喜	高倉 聖哉	高倉実枝子
高瀬 敦子	高橋まり子	高橋 光彦
高橋 有華	竹田 義秋	館田 勝久
田辺 敏子	田邊 未来	谷川 松芳
丹 暢夫	土屋 淑子	筒浦 直子
出井 博之	出村 良平	土居 安子
當瀬 規嗣	富永ナル子	永井 信夫
中垣美智子	中川 富子	中北もと子
中里 祐子	永沢 潔	長沢 洋子
中田 和代	長谷 生子	中山 芳子
西村 敦子	西村 宏子	沼本 厚子
根子 香代	野崎 美江	野島 聡
野村 邦重	橋爪 侑子	橋場ゆきえ
橋本真知子	長谷川 衛	畠山 節子
花岡 麻子	羽磨 洋平	林 孝子
檜垣 正志	平山 貴雄	廣澤 洋子
福井 爽人	福井 睦子	福島 敏幸
福原 正己	藤井 雅裕	藤沢 薫
藤田 宮子	藤牧 資司	藤森 武夫
舟山 直治	古谷 次郎	細山 公子
本多 慶子	前田 憲	昌川 吉子
松井 紀子	松尾 絵美	松本 範男
三ツ井 稔	南 昌義	宮崎 むつ
向井 亮	村岡 樹	村雲佳代子
村田 一枝	村田 照	村松 晶子

法人賛助会費納入一覧

生活協同組合コープさっぽろ	コアレックス道営(株)
札幌拓殖倉庫(株)	(株) マルゲンベル
(株) 安藤敏郎建築設計事務所	(株) 熊本建築設計事務所
(株) K&I・代表 河村郁子	(株) エス・アイザックス商会
(有) 雷屋	公文桑園教室・田頭 愛
近藤工業(株)	新野税理士事務所
筑波大学付属視覚特別支援学校	スナックミエ・宮本美栄子
(株) 小川ホームサービス	(株) スドウ建設
UAゼンセン	アークスグループ労働連合
あっぷる	家庭福祉相談室

布の絵本 のんの
北海道労働者福祉協議会

2026年3月以降寄附一覧

(個人)

青木 直史 青木 遥香 青沼 静子
東 由美子 飯村 俊幸 岩本 好一
碓井トミ子 大島千寿子 大野 信道
奥山 亮 川口谷 正 平 照治
谷内おさむ 富澤 享子 西岡 井子
野田 邦子 福田 都代 松本 宏司
山崎由紀子(故山崎弘象)

(団体)

札幌南ロータリークラブ
生活クラブ生活協同組合
全障研札幌サークル
桑園第10町内会

2026年3月以降助成金一覧

コープ共済連
生活クラブ生協
日本読書協会

2026年3月以降寄贈一覧

3月6日 童心社
3月8日 相原 則子
3月17日 学研
3月17日 杉下 清次
3月23日 童心社
4月17日 童心社
5月3日 童心社
5月27日 童心社
6月17日 童心社
6月29日 学研

絵本 2冊
絵本・遊具多数
児童書 1冊
乳製品多数
絵本 1冊
絵本 2冊
絵本 1冊
児童書 3冊
児童書 5冊
児童書 2冊

2026年3月以降行事一覧

3月8日 うたう会
3月15日 おはなし会
3月22日 井上美豊子と楽しもう
3月24日 運営会議
4月19日 おはなし会
5月5日 こどもの日お楽しみ会
5月10日 うたう会
5月12日 理事会
5月17日 世界の楽器展
5月24日 おはなし会
5月31日 評議員会
6月21日 おはなし会
6月28日 井上美豊子と楽しもう

新しい拡大写本できました。

🌸 チリンのスズ

作 やなせ たかし

🌸 チリとチリリ さくらのはなし

作 どい かや

🌸 戦争が町にやってくる

作 ロマナ・ロマニーシン
アンドリー・レシヴ



◆ひとみの教室を見学して

六月二十三日(火)

ひとみの教室は札幌市立中央小学校内にある弱視通級指導教室です。

七年前に小学校の建て替えによって教室はきこえの教室、ことばの教室と共に五Fのフロアになりました。

私達の寄贈している拡大本(大きな字の本)は五Fのプレイルームの書架にありました。弱視の子ども達は地域の学校に通いながら週に一回の通級の折に自由に本を借りることができます。

見学は小学部の下村先生より弱視の子どもの様子や通級での教育活動などをモニターに映して説明を受けました。子ども達は自分の苦手な分野の練習をしたり、より読みやすい拡大の方法を先生から学んでいました。その後学習教室に移って単眼鏡やルーペを地図などの細かい文字にあてて使い方の指導を受けました。またボランティアの日頃の疑問に答えていただき、本づくりの活動の意義について、など率直なお話を伺うことができました。

現在教室は小学部の生徒の人数が少なく札幌市全域の弱視児童、生徒への教育相談を行っています。この教室は目に病気を持った子ども達にとってはとても大切な場所だと強く感じました。



5月16日

海のクリーンアップ大作戦 参加

ふきのとう文庫（こどもクラブ）として十九名が参加し、厚田海岸の海のゴミ拾いを行いました。

当日は天候も良く参加の皆さんは海の汚れとマイクロプラスチックの実際を学ぶことができました。

トドック軍手をつけてビニール袋とトンダを手にして準備万端、十時から一時間、厚田漁港の内海周辺のプラスチックゴミを中心に回収しました。

プラスチックゴミは長い年月をかけて砂場・海中ですり減り、5mm以下の微粒子となり海中に残存するのです、そのプラスチック粒子を魚が食べて、その魚を人が食べて体内に蓄積することの健康影響が懸念されております。

海のプラスチックゴミの実際を見て拾って、ゴミを捨てない、拡散しないことの大切さを学ぶ機会となりました。



5月18日

世界の楽器展が開催されました

今回で六回目となる楽器展が七年ぶりに行われました。当文庫の井筒さんが保有している六〇〇点の中から二〇〇点を持ち込んでいただき、多目的ホールで開催しました。全ての楽器は自由に触れて、音を楽しむことができます。オランダ、インドネシア、ベトナム、ロシア、タイなど世界各国の楽器が勢ぞろいしています。人気だったのはアルプスの少女ハイジでお馴染みの「アルプスホルン」。音を出すのが難しい楽器ですがみんな挑戦しています。♪ポー♪と音が出るたびに大喜びです。マンモスの骨、ロバの下顎、アルマジロ、何でも楽器になっているのには驚きました。大きなガラスの楽器「クリスタルシンキングボール」の音の出し方は、周りを棒でなでながらゆっくり音をだします。音が出ると重低音が響き渡ります。この楽器はチベット寺院で宗教儀式に用いられていた法具の一つです。今回触れられなかった楽器もあると思います。来年も楽しみにお待ちください！



あとがき

六月北海道神宮祭も終えて山々では新緑の中に山セミの鳴き声を聞く頃となりました。

ふきのとう文庫では今年からの運営変更を行っております。こどもクラブ運営では独自財源確保する課題に直面しており、新たな賛助会員を広め寄付金等を広める取り組みを進めていきます。さらに、諸物価の値上げの中で十三年間据え置いたきた布の本製作単価値上げに踏み切ることにしました。

基本運営はボランティアさんに支えられ、札幌唯一の子ども図書館として役割を担っておりますが、次代変化にに応じた中で改革を進め未来へ持続可能なふきのとう文庫経営を目指してまいります。

横澤 記

編集 公益財団法人ふきのとう文庫
代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北6条西12丁目8番3

☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800

http://www.fukinotou.org

E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp

令和8年7月10日 発行

毎月10日発行 定価100円（維持会費に含む）

昭和48年1月13日 第三種郵便物承認

HSK 通巻652号

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川 久美子

郵便振替=02720-3-2300 銀行口座=北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、“北海道共同募金会の配分”により刊行しています。

維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。